

本太中だより

令和7年12月1日

さいたま市立本太中学校
第8号 048(886)4305
<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>
E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

言葉に込める未来への力 言葉は小さな花びら、内面の全体を映す力

校長 田中 一秀

校内の木々が冬の色に染まり、冷たい風に乗って季節の移ろいを感じる頃となりました。今年も地域の皆様の温かいご協力をいただき、約120名の3年生に進路模擬面接を実施することができました。進路模擬面接では、面接員を務めていただいた地域の方々から一人ひとりに心のこもった助言と励ましのお言葉をいただき、生徒にとっては、「初めて会う大人と話すことは意外と難しい」という緊張とともに、「初めて会う大人から応援されることは本当に嬉しい」という喜びを感じる貴重な機会となりました。市内でこのような取組をしているのは本校だけではないかと思います。改めて、本校が、喜びと愛情に満ちた地域に支えられていることを強く感じています。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、現在の2年生が受検する「令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜」から、公立高校を受検するすべての生徒に「面接」が導入されます。この面接は、これまでの学校生活や地域での活動を振り返り、努力したことやこれから挑戦したいことを自分の言葉で伝える場です。面接の冒頭に設けられる「My Voice」という時間には、自分の思いを自分らしく語るという意味が込められています。それは、これからの時代を生き抜くために欠かせない力だと私は考えています。

詩人で随筆家の大岡信さんの「言葉の力」という随筆があります。その中で大岡さんの脳裏には、「春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿」が浮かびます。そして、「花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの先端だけ姿を出したものにすぎなかった」と思うのです。大岡さんは、これを「言葉の世界での出来事と同じことではないか」と言っています。私たちの語る言葉は、ほんの先端だけ姿を表したのですが、その言葉にはそれを発した人の全体が反映されています。「My Voice」のリーフレット*には、桜の花が描かれています。私は、「My Voice」には、自分を見つめ直し、自分の考えを整理し、自分の言葉で語ることが、変化の激しいこれから時代を生き抜くために必要な「自ら課題を見つけ、学び、考え、判断する」一歩になるというメッセージが込められていると考えています。

新しい年も、生徒たちが自分の声を大切にし、未来に向かって挑戦できる学校づくりを進めてまいります。大岡信さんが語ったように、言葉は桜の花びらのように小さくても、その奥には幹や樹液のように深い力が宿っています。子どもたちが語る一言一言には、その子の歩みや思いが映し出されています。私たち大人の役割は、子どもたちの言葉に耳を傾け、その内面に込められたを感じ取ることだと思います。教職員や保護者、そして地域の皆様とともに、生徒たちの言葉に耳を傾け、その内面の力を花開かせる場をつくりていきたいと思います。

*埼玉県教育委員会 令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜に関する情報 面接についての
リーフレット（令和7年8月29日掲載）
https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/257619/r9mensetsu_leaflet02.pdf